



今年の総会は6月3日（金）に決定！

20周年記念誌の配布が終わりました。無事皆さんのお手元に届いたでしょうか。今回は皆さんのご協力のおかげで郵送することも無く、全会員に配布できました。重い冊子を何冊も抱えて持ち帰って頂いた会員の皆さん、理事さん、クラブ代表の方々に心よりお礼申し上げます。

新年度を迎え、企画運営委員会や理事会は総会に向けて動き出しています。総会は6月3日（金）に狭山市駅前の市民交流センターで行います。詳しいことはまたお知らせしますが、当日は楽友会総会を是非予定に入れておいてください。



新年度はどんな活動を？

第44回 理事会報告
3月28日（月）

新年度第1回の理事会では、愛称「さやま楽友会」の使い方や、新年度の理事候補、令和4年度総会日程などについて話し合われました。

愛称「さやま楽友会」については、「これからいろいろなイベント等に積極的に使用していくと良い」、「正式にはさやま市民大学同窓会を使用する場面もあるのではないかな」等々、様々な意見が出されました。せっかく決めた愛称ですので同窓会のいろいろな場面で使用し、皆さんに楽友会の名に親しんでいただくと良いと思います。

新年度の活動についても話し合わせ、皆さんに楽しんでいただき、有意義な会にするためには、どんなことを計画して行ったら良いか意見が交わされました。気軽に参加できる地区活動をする、クラブの体験会を計画する等、アイデアもたくさん出され、方向性は良いので継続的にやっていくことが重要ではないかとの力強い意見もありました。また、新理事、会計監査候補も挙げられ、今年は16人の理事で新しく出発する予定です。人数が3分の2になりますが、強力な協力体制で進めていければと思います。新年度の活躍が期待されます。

戦国SENGOKU秘話と謎講座 第1回終わる



楽友会主催講座「戦国 SENGOKU 秘話と謎」の第1回が4月11日に行われました。古代から中世へ、そして戦国の時代への大まかな流れ、信長、秀吉、家康、光秀の人となり等が話されました。第2回は女性たちに焦点を当て、第3回は信長から秀吉、家康へ。それぞれ18日（月）、25日（火）午後2時より、狭山市駅前市民交流センターで行われます。1回のみは1300円でしたが、1000円で参加できます。希望の方は当日直接会場においでください。

第2回・・・築山殿にお市の方とその娘たち、淀君、お初、お督（江）の三姉妹、そして春日局など、戦国の女性たちの生きざまを語ります。

第3回・・・織田信長の弟、織田有楽斎は利休を超える戦国茶人として長寿を全うした。「うつつけの三郎（信長）」に「へたれの源吾（有楽）」と言われた兄弟の若き日から、秀吉の時代を経て関ヶ原合戦・大坂の陣に至るまで、戦国の光と闇を見つめます。



● 『散歩の醍醐味』 尽きない冒険④…こんな所に道祖神 ●

前回、自宅から下奥富交差点付近まで散歩した。地形散歩の観点からすると、入間川が浸食した東丘陵の麓と推定され、国道16号、旧有料道路、農業用水路赤間川の3つが交差している。今回は、車で下奥富交差点付近まで来て、そこから歩き始めた。

16号、赤間川と別れ、丘陵沿いの小道を進むと、左側は雑木林と住宅が点在し、右側は田畑となっている。1ヶ月半前の肌を刺すような空気に比べ、柔らかく肌を撫でる風は、咲き始めた桜の香を包み、春の風情を醸し出している。余韻を楽しみながら、歩を進めると、左側麓に「清水下公園」の看板がある公園に着いた。清水が僅かに染み出ている公園のベンチに腰掛け、しばし春の風情に浸っていると、かさかさとした音がし、藪の中からアライグマと思われる小動物が顔を出した。目と目が合うと、迷惑そうな顔が何とも可愛らしい。刺激しないようにその場を離れ、更に麓の小道を進んだ。



右側に、埼玉赤心会病院、市民会館が見えてきた。バス道路の信号交差点（市民会館前）を直進し、再び合流した赤間川の畔を進むと、「道祖神」のような石碑が道路の右側に立っていた。上部に浮き彫りの馬頭観音、下部に「石橋供養塔」と彫られていた。説明文を読むと、昔、約100m先の赤間川に架かる菅原橋石橋の安全や、道を行き交う人々の無事を祈って立てたそうである。注意していないと、見逃してしまうが、昔の人々が、安全・安心を祈願した道祖神のような石碑は、狭山市に数多く点在している可能性がある。古びて、目立たない道祖神を見つけて歩くのも散歩の醍醐味の一つかも知れない。

赤間川に沿って、麓の道を100m程進むと、信号のない交差点に出た。左は説明板に紹介された菅原橋石橋を渡る坂道で、狭山七夕街へ続く。右はスーパーイオンの跡地である。直進してすぐのトンネルの上は、バス道路で、右は国道16号、左は七夕通りへと続く。この先、どんな風景に出会うのか。興味は尽きなかったが、帰路を考えると足腰が悲鳴を上げそうなので、引き返すことにした。

（松本功さん）

道祖神：峠や辻、村境などの道端にあって、悪霊や疫病などを防ぐ神

【ちょっとエッセイ】 誰でも天才

ある月刊誌に金澤翔子さんの「翔子の書」というコーナーがある。そこにはダウン症の書家として知られる翔子さんの力強い作品が掲載され、お母さんである泰子さんの短いエッセイが載っている。一人暮らしを始めた翔子さんの様子やダイエットにズルをした時の話など、いつも温かい目で娘さんを見守っている。毎月楽しみにしているのだが、今回の視点も泰子さんらしい。ぜひ楽友会の皆さんにも紹介したいと思いペンを取った。

翔子さんのペン字はとても下手だそう。泰子さんが「とても恥ずかしい」というほどに……。泰子さんの友人の脳学者によると、「書道の書は右脳から生まれ、ペン字は左脳の仕事だから」だそう。泰子さんは更に続ける。「もし書道をしなかったら、単に文字が下手な娘で終わった。翔子の片言の中の素敵な思いに気付かなければ、重い言語障害者で終わった。耳を澄ませ目を凝らして見てあげれば誰でも天才」。この母がいて、今の翔子さんがいるのが良く分かる。なんと泰子さんらしいのだろう。私に言わせれば、この天才に気付いた泰子さんこそ真の天才だ。

（ももさん）